

主催者挨拶



このたび、新渡戸稲造博士生誕150年を記念し、博士が若き日、第二の故郷でもある札幌の地で、クラーク博士の教育精神を学び、語らい英知を培われた学舎、札幌市時計台（旧札幌農学校演武場）指定管理者として、192万人札幌市民と全国の皆様に、博士の功績を讃え後世に伝承するため、記念のパネル展を開催することといたしました。

博士の偉業については、一遍のパネルで説明できる場所ではありませんが、博士が「われ太平洋の架け橋にならん」として、大望をいただいて米国の地に渡り、英文著書「武士道」により日本人の国際的地位を高めた功績は図りしれないものであり、また、教育者として次世代を担う若い世代の育成のため情熱をそそぎ、指導に当たられた博士の魂を感じていただければ幸いです。

最後にパネル展開催にあたりご支援いただいたたくさんの皆様に感謝とお礼を申し上げます次第であります。

平成24年8月
札幌市時計台指定管理者
一般社団法人 札幌市友会
理事長 佐々木 喜四
札幌市時計台館長



新渡戸稲造 歴史年譜

- 1862年(文久 2年) 盛岡藩(のち岩手県盛岡市)の、当時奥御勘定奉行であった新渡戸十次郎の三男として生まれる。幼名稲之助。
- 1871年(明治 4年) 兄道郎とともに上京。叔父太田時敏の養子となる。
- 1873年(明治 6年) 東京外国語学校英語科(のちの東京英語学校、大学予備門)に入学。
- 1877年(明治10年) 札幌農学校に第二期生として入学。のち東京大学選科入学。同時に成立学舎にも通う。
- 1882年(明治15年) 農商務省御用掛となる。11月、札幌農学校予科教授。
- 1884年(明治17年) 渡米して米ジョンズ・ホプキンス大学に入学。
- 1886年(明治19年) クェーカー派、モリス茶会でメリーと出逢う。
- 1887年(明治20年) 独ボン大学で農政、農業経済学を研究。
- 1889年(明治22年) ジョンズ・ホプキンス大学より名誉文学士号授与。長兄七郎没、新渡戸姓に復帰。
- 1891年(明治24年) 米国人メリー・エルキントン(1857-1938、日本名:万里)と結婚。帰国し、札幌農学校教授となる。
- 1894年(明治27年) 札幌に遠友夜学校を設立。
- 1897年(明治30年) 札幌農学校を退官し、群馬県で静養中「農業本論」を出版。
- 1900年(明治33年) 英文「武士道」(BUSHIDO: The Soul of Japan)初版出版。ヨーロッパ視察。パリ万国博覧会の審査員を務める。
- 1901年(明治34年) 台湾総督府民政部殖産局長心得就任。
- 1903年(明治36年) 京都帝国大学法科大学教授を兼ねる。
- 1906年(明治39年) 第一高等学校長に就任。東京帝国大学農学部教授兼任。
- 1909年(明治42年) 実業之日本編集顧問となる。
- 1916年(大正 5年) 東京貿易殖民学校長に就任。
- 1917年(大正 6年) 拓殖大学学監に就任
- 1918年(大正 7年) 東京女子大学初代学長に就任。
- 1920年(大正 9年) 国際連盟事務次長に就任。
- 1921年(大正10年) チェコのプラハで開催された世界エスペラント大会に参加。
- 1925年(大正14年) 帝国学士院会員に任命される。
- 1926年(大正15年) 国際連盟事務次長を退任。貴族院議員に。
- 1928年(昭和 3年) 東京女子経済専門学校(のち新渡戸文化短期大学)の初代校長に就任。
- 1929年(昭和 4年) 太平洋調査会理事長に就任。拓殖大学名誉教授に就任。
- 1931年(昭和 6年) 第4回太平洋会議に出席(上海)。
- 1933年(昭和 8年) カナダ・バンフにて開催の 第5回太平洋会議に出席。ビクトリア市にて客死。

